

▶ 第10章

# 米中デカップリングとスタートアップ投資 ——コロナ禍で中国台頭、投資分断加速へ

日本経済研究センター アジア予測室長兼主任研究員

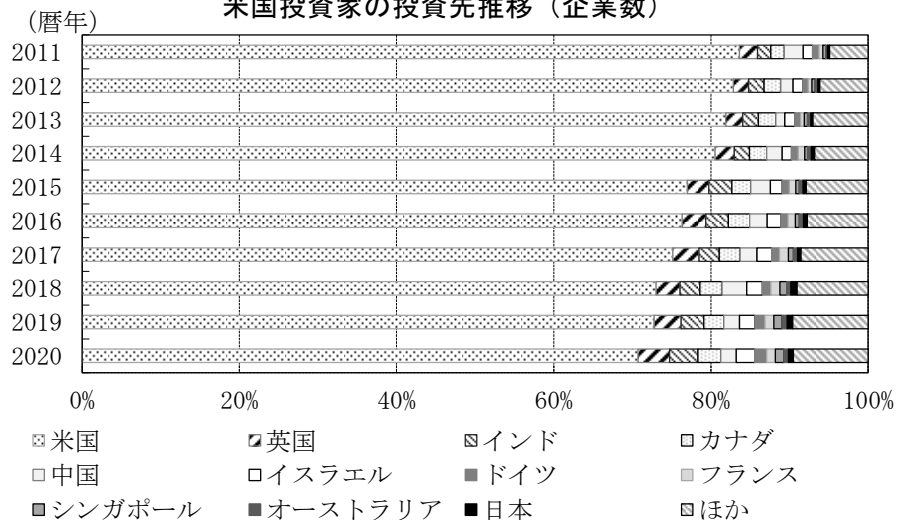
上原 正詩

【ポイント】

- ▶ 中国が米国を経済規模で追い抜く時期は、コロナ禍の影響で大幅に早まる見通しだ。最先端技術の社会実装を担うスタートアップの分野でも中国の台頭は著しく、世界で米国に次ぐ地位を占めている。コロナ禍でもベンチャーキャピタル（VC）の投資は劣えず、両国への資金集中が加速している。
- ▶ VC投資でも米中分断の傾向が見られ、中国の投資家は脱米国、アジアへのシフトを進めている。米国では人工知能（AI）など「新興・基盤技術」への中国からの投資を規制する動きが顕在化。百度（バイドゥ）や騰訊控股（テンセント）は自動運転やメディア関連企業に投資しており、問題視される可能性がある。
- ▶ 米国の投資家は海外への投資比率を高めて、英加印の重みが増している。中国は4位で比率は低下傾向にある。米国政府は米国人の中国投資も制限し始めており、インテル、クアルコム、グーグル、アップル、さらにブラックロックなどの資産運用大手の投資に影響が出る可能性がある。スタートアップの世界でも米中デカップリングは加速する見通しだ。



米国投資家の投資先推移（企業数）



資料：ピッチブック（2021年1月9日時点）